

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2793200128		
法人名	株式会社ケア21		
事業所名	グループホーム たのしい家佐太中町(ユニット1)		
所在地	大阪府守口市佐太中町7丁目10-20		
自己評価作成日	平成30年7月11日	評価結果市町村受理日	平成30年10月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JirvosyoCd=2793200128-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JirvosyoCd=2793200128-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成30年8月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

生活リハビリを中心に、散歩や多彩なイベントで活発で楽しく生活して頂いてます。キッチンに立てる方には調理全般を職員共に取り組んで頂いており、立位保持が困難な方には自席にて包丁やおろし金を使つての調理や盛り付けをお手伝い頂いてます。洗濯物たたみの他、屋上に上がつての洗濯物干しも楽しんでいます。一日3回の清掃では、床のモップ掛けを多くの入居者様がたのしみにされており、歩けない方も自席周辺の清掃に取り組まれています。月2回カラコ体操教室を実施しており、その後の喫茶店でお茶とおやつにカラオケを楽しめます。一階二階入居者様全員が参加されており、体操教室には近隣住民の方も参加されています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは、人との輪やコミュニケーションを大切にすること等を謳った事業所理念を作成し、納得いくまで話し合い利用者が地域と繋がりながら暮らせるような支援に取り組んでいます。自治会からの回覧板で地域行事を知り清掃活動や祭り、盆踊りなどに利用者と参加したり、ホームで行う体操教室は近隣の方の参加があり、更に太鼓や盆踊りのボランティアの来訪もあり多くの交流の機会を作り利用者を楽しんでもらっています。利用者とのコミュニケーションから得られた希望を大切に、献立に取り入れ食べたい物を提供したり散歩や買い物、利用者全員で鶴見緑地への外出、少人数でのボーリング等の外出の機会を多く作っています。職員間の関係性も良く、勤務体制の変更による業務改善や物品購入、利用者への支援内容等を利用者本位に意見を出し合い運営に反映しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は相談室に掲示し周知している。	法人の理念の基、開設時に人との輪やコミュニケーションを大切にすることを謳ったホーム理念を作成しています。入職時に職員に理念について説明し、相談室に掲示し意識しケアにあたるようにしています。問題が生じた時には理念に立ち戻り納得いくまで話し合い理念が実践できるように取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し神社清掃にご利用者様と参加している。カラコロ体操教室を開催し、地域の住民の方に開放し参加いただいている。	近隣への散歩や買い物に行った際にで出会った方と挨拶を交わし、加入している自治会からの回覧板で地域行事を知り清掃活動や祭り、盆踊りなどに利用者として参加しています。2週に1回ホームで行う体操教室は近隣の方の参加があり、また太鼓や盆踊りのボランティアの来訪があり、交流の機会を作り利用者楽しんでもらっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	神社への参拝や散歩、近隣への買い物で地域の人々に出会い挨拶をすることで認識をいただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎にもれなく開催しており、ご家族や地域包括の職員からの提案も受け入れ施設運営に反映している。	会議は家族や町内会会長、民生委員、社会福祉協議会職員、地域包括支援センター職員等の参加を得て隔月に開催しています。運営状況や行事、職員体制、研修、事故等の報告を行い、意見交換をしています。参加者から夏季の外出についての注意喚起や研修の評価を受けたり、筋力低下の不安に対する取り組みについて伝える等、会議を通してホームを知ってもらったり意見を得て運営に活かせるよう取り組んでいます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護報酬改定や身体拘束・混合介護について、くすのき連合と相談し対応している。8/28には高齢介護課職員との相談会を当施設にて開催予定。	運営推進会議の議事録は市の広域連合の窓口へ届け、身体拘束についての疑問に答えてもらう等運営上のわからないことがあれば直接市役所に行ったり電話で聞いています。グループホーム連絡会の場所を提供してもらったり市職員の出席を得たこともあり、また利用者家族向けの相談会を行ってもらう等、協力関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年一回以上身体拘束防止研修を行っている。玄関は施錠しているが、外出の要望があった場合は人員体制に余裕がない場合を除き、早急に職員同行による外出を支援している。	身体拘束についての研修を行ったり、セルフチェックを行いながら職員が理解できるように取り組んでいます。言葉で行動を止めてしまう時には職員間で注意し合ったり、ベッド柵やセンサーの使用について話合っています。運営推進会議で身体拘束適正委員会を設け事例検討を行っています。また利用者が外に行きたい様子があればできる限り一緒に外に出よう支援しています。	

グループホーム たのしい家佐太中町(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年一回以上虐待防止研修を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている入居者様の金銭のやりとりや後見人との相談内容を会議等で公表し、多くの職員が制度にふれる機会をつくっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の説明以外にも、疑問点について気軽に問合せができるよう新規入居のご家族様には管理者の携帯電話番号を公表し活用いただいている。改定時は全入居ご家族様に対し電話と書面にて説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。 年に一回お客様アンケートを実施している。 ご家族からの意見・要望は職員の共有ノートに記載、毎月の会議でも討論し情報共有している。	日々の関わりの中で利用者の意見を聞き、献立に取り入れたり外出先に反映しています。毎月写真を載せた便りを送り様子を伝え、面会時や電話を掛けた時に家族からの意見を聞いています。 個々の要望は速やかにできる事から改善し、薬を減らして欲しいとの意見には医師に伝えながら応えられるように関わり、職員間では共有ノートで情報共有しています。また年に一度の満足度調査を行い意見や要望を聞く機会を持っています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の申し送りや毎月の会議で職員からの意見や提案を協議している。	日々職員が意見や提案を言いやすい雰囲気があり申し送り等で意見が出された時には速やかに改善し、案件によっては毎月行う会議の中で検討しています。朝食の残食が多いことを受けてパン食に変更したり勤務体制の変更による業務改善、物品購入についての提案があり検討し対応する等、意見を運営に反映させています。また年に1~2回個人面談を行い意見や思いを聞く機会を作っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年一回段位認定制度による評価を実施している。 毎月有給休暇取得し、職員が公私ともに充実した生活を送れるよう勤務体制を整備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員は本社で開催されている入社後1・3・6・24ヶ月研修に参加している。 希望者や選抜者には認知症ケア研修やコーチング研修等に参加されている。		

グループホーム たのしい家佐太中町(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者・計画作成者やフロアリーダーは本社で行われている会議で他事業所の職員と勉強会に参加している。管理者は2ヶ月毎に守口グループホーム連絡会に参加し意見交換している。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人が話にくい内容であっても、言動や表情・動作からよみとり対応することにより、安心と信頼を得ることができるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時にはご家族から現状の問題点・不安や要望を十分に聞き取り緊密に連絡を取り、信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前のサービスの利用状況も考慮に入れ、ご本人とご家族にとって最適なサービスを見極め実践している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除・洗濯・調理等の生活リハビリを職員と共に行うことにより、共に生活する関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と面会の際はできるだけ静かにゆったりと過ごして頂けるよう支援している。ご家族が参加できる行事も企画し、賛同いただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族以外の友人の方等も面会に来て頂けている。近隣にお住まいがあった方には散歩に出向いて、昔の家屋や知人の方との出会いを楽しんでいただいている。	行き慣れた美容院やスーパー、神社、自宅周辺等へ職員の対応で出かけたり、家族と墓参りや外食に行く方にはスムーズに外出できるよう準備等の支援をしています。また親戚や近隣に住んでいた方、元同僚などの来訪時には居室で過ごすことが多く、椅子やテーブルの準備やお茶を出しゆっくり過ごしてもらえよう支援しています。	

グループホーム たのしい家佐太中町(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他ユニットの方と散歩やイベントに参加することにより会話が弾み、顔なじみの関係が築けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご逝去以外の契約終了がありません。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望や意向を常に把握し介護計画に反映している。	入居時に自宅や施設など利用者が暮らしている所で面談し、生活歴や趣味嗜好、思いを聞き、担当のケアマネジャーから情報をもらい意向の把握に繋がっています。入居後は、日々の関わりの中から得られた情報は申し送り等で共有し、把握困難な思いは日々職員間で話し合ったり会議で本人本位に検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス経過表を作成し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の体調や過ごし方に変化があれば、申し送りや連絡帳で情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題とケアのあり方については毎月会議を開催し、介護計画に反映させている。	本人や家族の意向、アセスメントの基サービス担当者会議を開き、介護計画を作成しています。初回は1か月目に見直し、以降は利用者の状況に応じて5～6か月毎に見直しています。見直しに当たっては再アセスメントと評価を行い、家族の意向確認や訪問看護記録を参考にし、サービス担当者会議を開いています。利用者に変化があればその都度見直しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録は個別に記載しており、個別にファイルで管理している。申し送り等で情報共有し、また閲覧することにより介護計画の見直しに活用している。		

グループホーム たのしい家佐太中町(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物等の要望があった場合は臨機応変に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の神社や薬局の他にも、他社が運営する介護施設に向いてイベントに参加するなどして外出支援を多様化している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回往診医により対応している。	入居時に以前からのかかりつけ医を継続することも可能なことを説明しています。現在は全員が協力医の月2回の往診を受け、体調不良の際には24時間連絡が取れ状況によっては看護師や医師に随時訪問してもらっています。訪問看護師による毎週健康管理を受け、希望に応じて訪問マッサージを受けている方もいます。また月に2回訪問歯科による口腔ケアや治療を受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約し、毎週金曜日に看護師が来所し対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は往診医から診療情報、施設から介護サマリーを提供し、頻回にお見舞いに伺っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化指針や緊急時・終末期の対応について説明している。重度化した場合は医師・家族・職員との話し合いにより支援していく。	入居時に重度化や看取りについての対応指針をもとにホームで対応できる事について説明しています。重度化した際には医師から家族に状況を説明してもらい職員も共に話し合い方針を共有しながら看取り支援をした経験もあります。看取りについての研修は法人による研修を受けた職員が伝達し学んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを各フロアに配置している。		

グループホーム たのしい家佐太中町(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防訓練を実施している。	消防訓練は年に2回消防署の立ち合いの下昼夜を想定し、通報や初期消火、玄関までの避難誘導の訓練を行い、消防署員からアドバイスをもらっています。また水や缶パンなどの備蓄や携帯トイレなどの備品を置いています。	運営推進会議で訓練の予定を伝えていますが協力依頼や体制についての話し合いになっておらず、消防団や近隣の方に働きかけたり運営推進会議で議題に挙げる等協力関係の構築に向け取り組まれてはいかがでしょうか。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇マナーや虐待防止研修を実施している。 人格を尊重した介護ができているか、毎月の会議で討論している。	年に1回以上接遇マナーや虐待防止、認知症等についての研修の中で利用者の尊厳を守り尊重した対応について職員は学んでいます。馴れ馴れしくならないよう丁寧な言葉かけを心がけ、不適切な対応があれば都度注意し、毎月行う会議の中で日々の言葉遣いを振り返っています。利用者の希望やわかりやすさに合わせて苗字ではなく名前で呼んだり、同性介助に対応しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定を促す声かけを多用している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別レクとしてご本人の希望を伺い実践している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品やアクセサリでおしゃれができるよう、ご家族と相談し支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理から洗い物まで、食事全般において職員と共に楽しんでいる。	業者の栄養バランスの考えられた献立にそって食材が届き、利用者は食材を切ったり盛り付けなどのできる事に携わってもらい食事作りをし職員も一緒に食事を食べています。季節の行事食や希望を聞いてお好み焼きやたこ焼きなどを楽しみ、時には握り寿司や花見の際に弁当を注文する等、業者の献立を変更することもあります。敬老会やクリスマス会などは家族も招待したり、ホットケーキやカステラなどの手作りおやつも利用者の楽しみとなっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材提供会社のメニューに基づき栄養バランスに優れた食事を提供している。一人ひとりの生活習慣も考慮に入れ水分を提供している。		

グループホーム たのしい家佐太中町(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力にて口腔ケアができないかたには職員が介助している。自立の方には職員が仕上げ確認を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意の無い方には定時誘導を行い、排泄の失敗が多い方にはトイレ誘導を頻回に行っている。	日々の記録から個々の排泄のパターンを把握し、その人のタイミングでトイレに行けるよう支援しています。利用者の状況は毎日行う申し送り支援方法や排泄用品の選択について検討して共有し、会議で改めて話し合うこともあります。退院後は入院前の状況に戻れるように支援し布の下着で生活している方や夜間のみおむつの使用にし昼間は紙パンツで過ごす方など、個々に合わせて自立に向かうよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医療機関と連携し下剤を調整している。ペダル漕ぎや散歩等の運動を提供し便秘の解消に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決めずに個浴、お湯は毎回入れ替え好きな方にはゆっくり湯船につかって頂いている。自分専用のシャンプーや洗顔料を使用されている方もいる。	入浴は週に2~3回を目安に日中の時間帯で支援し、一人ずつ湯を入れ替えゆっくりとコミュニケーションを取りながら入ってもらっています。希望があれば回数を増やすことも可能で、好みのシャンプー等を持参する方がいたり、入浴剤や柚子湯等の季節湯を楽しんでもらっています。拒否される方には時間や日を変えタイミングを図りながら声を掛け、無理のない入浴に繋がっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室には入居者様なじみの物品を配置し、使い慣れた枕や布団を使用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬について変更があった場合は、医師からご本人に直接話され家族様向けのファイルにも記載される。また連絡帳や申し送りにより職員間で情報共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理・洗濯・掃除を職員と共に行っている。誕生日会やイベント・日々のレクリエーションで支援している。		



グループホーム たのしい家佐太中町(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所の神社へは日常的に散歩に出かけている。河川敷や公園・ショッピングモール・回転寿司・レストラン・他介護施設等へも外出レクとして支援している。	近隣に神社があり日々の散歩や花見などの行事で出かけた、希望に応じた外食や買い物、ドライブなど外出の機会を多く作っています。近隣施設で行われる行事に参加したり、利用者全員で鶴見緑地への外出、ポーリングに行きたいとの利用者の要望から他の希望者を募り少人数で出かける等、外出行事を企画して実現し利用者に楽しんでもらっています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者の所持金は事務所金庫にて保管している。買い物の要望があれば職員共に外出し、ご本人が購入できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持されている方がいらっしゃいます。ご本人に届いた年賀状はすべて提供し閲覧いただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じ取れるかざりをご利用者様と制作し壁や居室に貼っている。共有空間や中庭は観葉植物等で居心地の良い空間となるよう演出している。	共有空間には利用者と一緒に作成した花火などの季節ごとの壁絵や時には生花を飾り、季節を感じられるようにしています。利用者同士の関係性を観てテーブルの配置や座席を決め、廊下にも椅子を置き居場所を選ぶこともでき、居心地の良い空間作りに努めています。毎日換気や掃除を可能な利用者と一緒に、温湿度計を見たり体感も聞きながら調整し、清潔で過ごしやすいよう配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアでは一人ひとりにとって居心地の良い座席になるように、テーブルと座席の配置を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご本人様が自宅で使用されていた馴染みの物品を配置し、居心地が良くなるよう工夫している。	入居時に使い慣れた物を持って来てもらうよう伝え、タンスや棚、テレビ、大切にしている仏壇などの馴染みの物を家族に配置してもらい、生活する中で安全で動きやすいように配置換えをすることもあります。写真やアルバム、以前作成した刺繍の作品や花を飾り、その人らしい居室となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活リハビリを中心に、炊事・洗濯・掃除を職員と共に、各居室にはご本人様とわかるよう名前を表示している。		